

令和6年度 第1回東京都北区環境審議会 議事要旨

日時：令和7年1月27日（月）14:00～15:30

会場：北区役所 第二委員会室（第一庁舎4階）

【出席者】

<委員>

会 長：	小川 芳樹	委員			
	品川 明	委員			
	村上 公哉	委員	益永 茂樹	委員	原 茂樹 委員
	檜垣 昌子	委員	原 芳子	委員	成川 友英 委員
	大蔵 博	委員	大沢 たかし	委員	近藤 光則 委員
	竹田 ひろし	委員	くまき 貞一	委員	

（欠席）大貫 新一 委員 小山 文大 委員

<事務局>

銭場 多喜夫 生活環境部長 菅原 満理子 生活環境部環境課長 環境課環境政策係

【次 第】

- 1 開会
- 2 報告事項
 - （1）「北区環境基本計画 2023」の進捗状況について
 - （2）「北区緑の基本計画 2020」の計画目標及び施策目標の進捗状況報告について
 - （3）その他
- 3 閉会

【傍聴人】 0名

【配布資料】

- 次第
- 委員名簿
- 座席表
- 資料1 「北区の環境（令和5年度実績）」（抜粋）
- 資料2 「北区緑の基本計画 2020」計画目標の進捗状況報告
- 資料3 「北区緑の基本計画 2020」施策目標の進捗状況報告
- 資料4 「北区緑の基本計画 2020」概要版
- 資料5 「令和5年度北区緑の実態調査報告書」概要版

【議事要旨】

1. 開会
2. 報告事項

(1)「北区環境基本計画 2023」の進捗状況について

＜説明資料＞

- ・資料1 「北区の環境（令和5年度実績）」（抜粋）

＜説明要旨＞

- 事務局 資料に基づき説明

＜質疑応答＞

○委員

- ・基本施策(6)「ごみの適正処理の推進」について、北区でもマンションが多く建設されているが、この数字にはマンションも含まれているか。

○事務局

- ・北区全域の数字なので、マンションも含まれている。

○会長

- ・基本施策の(1)のところで、国の目標が2030年を基準にしているため、2030年に目標年度を設定しているという説明であったが、この目標値は当初は2032年で考えられた数字であるため、2年前倒しで目標を達成しなければならない。現状値の実績を見ると、温室効果ガスの排出量やエネルギー消費量が増えており、太陽光発電設備は伸びてきてはいるが、目標年度を2年間早めて大丈夫だろうかとの懸念がある。その辺はどのように考えているか。

○事務局

- ・おっしゃる通り、エネルギー消費量や温室効果ガスの削減が進んでいない状況である。様々な取り組みを推進していくことが重要であるが、中間の見直しの時に皆様からご意見をいただきながら、目標値の見直しをしていきたい。

○委員

- ・資料1について、令和5年度の実績と書いてあるが、内容を見ると年度が令和元年や令和3年になっているのはなぜか。

○事務局

- ・基本施策(1)の部分については、区独自で算定している数値ではなく東京都や国の数値を引用して使っており、その最新の数値が令和3年度であるためである。

○委員

- ・基本施策(1)のところで、2番目の「北区域のエネルギー消費量」が11,510TJと書いてあるが、この「TJ」とは何をさしているのか。

○事務局

- ・この単位「TJ」は「テラ・ジュール」と読む。

○会長

- ・テラは10の12乗、ジュールは熱量の単位で、エネルギーなので熱量で測って表しているということだと思う。

○委員

- ・北区のこの数字は、他区から見ても多いのか少ないのか。

○事務局

- ・面積の問題もあるので一概には言えないが、突出して多くも少なくもない。

○委員

- ・この熱量の数字だけを記載されても分からない人も多い。他と比べて多いのか少ないのかなど、もっと説明していただけるとよい。

○事務局

- ・もう少し分かりやすく表現できるように考えていく。

○会長

- ・基本施策（4）（5）（6）は策定時と比較して、成果が上がってきて目標に近づいているが、それと比べると基本施策（2）、基本施策（7）の緑被率、基本施策（8）の身近な緑の創出といったところは良くなっているという状態ではなく、温度差が出ているような気がする。この差が生じてしまう理由として、何が考えられるのか。また、思うように進んでいないところについては今後どのようにしていこうと考えているか。

○事務局

- ・今回、目標を達成している項目もある中で、低迷しているものもある。ハード的なものが絡んでくると、他に比べると遅くなってしまう。また、緑被や緑の創出については、環境の分野だけで進めていける部分というのは幅が狭い。緑被率を上げていくには、まちづくり全体の構想の中で進めていく必要がある。そういう機会をとらえて、推進していきたい。

○委員

- ・先ほどの基本政策（6）ごみの適正処理の推進について、成果指標として、上段が1人1日あたりの「ごみ総排出量」、下の段が「ごみ排出量」となっているが、それぞれの定義は。

○事務局

- ・総排出量と排出量の違いは、資源化できるごみを含んでいるか否かの違いである。「ごみ総排出量」はいわゆる全てのごみの量、そこから古紙やプラスチック、びん・缶など資源化できるものを除いたものが「ごみ排出量」になる。

○委員

- ・基本施策（5）「資源循環型システムの推進」について、リサイクル率と記載されているが、具体的に何を示しているのか。

○事務局

- ・プラスチックごみなどを再利用した数値である。

○委員

- ・プラスチックゴミも様々な種類があるが、具体的にはどのようなものか。

○事務局

- ・例えばプラスチックごみの中でも資源化できるものと、資源化できずに燃やしてしまうものがある。他にも、瓶や缶など、全体のごみの中で資源に繋がっているものの数字である。北区では製品プラスチックも含めて資源化を始めたので数字がかなり上がってきている。

○委員

- ・その内容はどこかに記載されているか。

○事務局

- ・今回お渡ししている資料の中には記載がされていないので、今後その辺の定義等も明記していきたい。

○会長

- ・混乱が起ころうな数値については、脚注のような形で良いのでどういう意味の数字かが分かるように記載した方がよい。

○委員

- ・基本目標3について、現状実績が令和5年の21.6%で、令和14年の目標が21.4%になっているが、目標はこのままでよいのか。

○事務局

- ・目標数値をすでに達成しているため、現在行っているごみ廃棄物関係の基本計画の改定の中で数値を見直していく予定である。これに合わせて、こちらの数字も変えていく。

○委員

- ・資源ごみのリサイクル率をもう少し上げて欲しい。プラスチックごみのリサイクル率が約20%とのことで、区民が一生懸命プラスチックごみを分けているので、もう少しリサイクル率を上げていただきたい。目標値をもっと上げた方がよいのではないかな。

○事務局

- ・説明が分かりにくく申し訳ない。リサイクル率について、例えば、プラスチックごみが1トン出たうちの214kgをリサイクルする、という意味の21.4%ではなく、燃やせるごみや生ごみ等ごみ全体の中で資源化している率になるので、プラスチックだけのリサイクル率が21.4%ということではない。北区のプラスチックの資源化はこの間非常に進んでいる。多くの方にご協力をいただき資源化した結果、北区の可燃ごみは令和5年度に約10%減になった。この10%というのは、23区の中で突出して高い数字である。プラスチックを資源化したのは全区ではなく北区を含め数区のため、その影響があるにしても平均3.5%ぐらいしか減ってないところ北区は10%減っている。
- ・プラスチックは非常に軽く、軽いがゆえに重さ単位で考えると努力してもなかなか数字に繋がっていない。資源化率については、プラスチックはもちろん、ペットボトルや瓶・缶なども引き続き努力していきたい。

○会長

- ・このリサイクル率の目標について、プラスチック以外のリサイクルを含めて令和3年度の実績が19.7%で、それに対して令和14年度の目標として21.4%と設定をした中で、ここ2、3年の経過の中でプラスチックの回収を強化する政策を打ち出してやった結果、現状は21.6%という結果になっている。ただ、この目標を設定した時点ではプラスチックのリサイクル強化について考慮されておらず低い目標になっているので、目標を見直して数字を上げていく必要があるという理解でよろしいかな。

○事務局

- ・そのとおりである。

○会長

- ・基本政策(10)に環境リーダーの養成講座の延べ参加人数が記載されているが、その上の環境学習講座延べ参加人数に比べると、逆に減っている。この減っている原因は何なのか。また、延べ参加人数というのは、1年間で何回か養成講座が行われており、それを1年間累積して延べでカウントしているという理解でよいかな。

○事務局

- ・講座の延べ人数については、年間で参加した人の延べ人数を記載している。
- ・環境リーダー養成講座の延べ人数が減少していることについては、昨年もこの場で話をさせていただいたかと思うが、内容がちょっと硬いということと、条件等があって受講のハードルが少し高いのではないかなというようにお話があった。その辺を踏まえて、もう少し参加しやすく、リーダーとしても活動できるような仕組みにしていけるよう検討しながら進めている。

○委員

- ・私は清水坂の自然ふれあい情報館でやっている環境リーダー養成講座の修了生活動というものをやっているが、それはこの数字に入っているのか。おそらく、区がやっているのではなく、施設が独自でやっているのではないかなと思う。

○事務局

- ・そちらは、自然ふれあい情報館が独自で開催しているイベントで、区で実施しているものはないのでカ

ウントされていない。

○委員

- ・施設が独自でやっているのであれば、いずれそれを区の方でカウントできるようにしていけば実績が上がるのではないかと思う。

○委員

- ・基本施策（11）で、SNSで環境に関する情報発信をしているというのは非常に良いと思うが、どのくらいの頻度で発信をしているのか、また、発信する基準のようなものがあるのか。

○事務局

- ・今年度から北区環境ポータルサイトを立ち上げて、その中で環境に特化した内容のものを発信している。現状はまだコンテンツが少ない状況ではあるが、北区の取り組みや助成制度の案内を掲載している。今後、環境に資する取り組みを積極的に行っている事業所の紹介など、有効かつ、成果に結びつくような取り組みを紹介していけたらと考えている。

○会長

- ・この計画の作成時が令和3年で2年ほど経過しており、いくつかの成果指標については目標年次を2030年度に早めている。あと2年ぐらいで中間段階を迎えることになるが、その中間段階でどこまで目標を実現できたかというところをしっかりと検討し、達成具合に対して対策を強化しなければいけない部分をはっきりさせて、後半を進めていく必要があるのではないかと思う。その辺はどのように検討していく予定か。

○事務局

- ・見直しにあたっては、その時の社会経済、環境など様々な進捗状況を勘案した上で、また、その時のトレンドなども踏まえて改めて内容と数値の見直しをかけていけたらと思っている。
- ・国や東京都も、ここへ来ていろいろな政策を打ち出しているのので、その辺を注視しながら後半を進めていきたいと考えている。

○会長

- ・具体的な対策の強化や検討を区の中で行い、ある程度まとめられたものを、例えばこの環境審議会に出して議論していくという流れで行われるのか。

○事務局

- ・区の中でも検討はするが、この審議会でご審議をいただいたので、この審議会とうまく連携をして、見直しなり新たな強化策を考えていきたい。その辺は会長とご相談をさせていただければと思う。

○会長

- ・最初から審議会ということではなく、特別な検討部会などを設置してそこで議論し、まとまったものを審議会へかけるというようなことも考えていただくと良いかと思う。

○事務局

- ・この審議会でも1から議論というのは時間的にも難しいので、庁内での議論をしっかりした上で、会長から検討部会という話もありましたので、その辺についてはまたご相談をさせていただき、効率的に議論をしていきたい。

○委員

- ・1ページ目の北区域の温室効果ガス排出量とエネルギー消費量の数値の見方について、大きく関わってくるのは電気だと思うが、策定時の実績と目標はおそらく策定時の換算係数を使っていると思うが、現状値は現在の電気の換算値を使っているのか、それとも策定時の電気の換算係数をそのまま使っているのか。特に電気に関しては、令和5年に省エネ法が改正されて換算係数が低くなっているのので、どのよ

うな換算係数を用いたのか教えてほしい。

- ・基本施策（11）で、SNSによる環境に関する情報発信の記載について、閲覧数ではなくてエンゲージメント率で記載されている。まずは閲覧数を増やすことの方が重要な気がするが、閲覧数ではなくエンゲージメント率にした理由はあるのか。閲覧数も付記すると、どれくらいの方が閲覧しているのかわかるのではないかな。

○事務局

- ・エネルギー消費量の係数について、策定時と現状値の実績は特別区の共同事業として数値の算定がされており、その数値をそのまま用いている状況なので、おそらく、その計算方法の定義というのは同じであると認識している。

○委員

- ・電気の換算係数、CO2 排出係数も一次エネルギー換算係数も、電源構成によって変わっていくと思うので、どの数字が用いられているのかを確認された方がよい。その際に、現状値がもし今現在の換算係数を使われているのであれば、目標値も現状の換算係数で計算し直した数値を併記しておく方が、現状値と目標の差が分かりやすいのではないかな。

○事務局

- ・換算係数については確認する。
- ・SNSに関するエンゲージメント率については、確かにアクセス数は一番気になる場所であると思われるので、可能であれば付記し、そのうちエンゲージメント率はいくつであるという表記にしていきたい。

（２）「北区緑の基本計画 2020」の計画目標及び施策目標の進捗状況報告について

＜説明資料＞

- ・資料 2「北区緑の基本計画 2020」計画目標の進捗状況報告
- ・資料 3「北区緑の基本計画 2020」施策目標の進捗状況報告
- ・資料 4「北区緑の基本計画 2020」概要版
- ・資料 5「令和 5 年度北区緑の実態調査報告書」概要版

＜説明要旨＞

○事務局 資料に基づき説明

＜質疑応答＞

○委員

- ・環境のまちづくりに関して、20 年ぐらい前までは毎週町会で清掃活動をやっていたが、最近はあまりやっていないようである。実体はどのようなになっているか。

○事務局

- ・町会・自治会独自で清掃活動をしているところは多くあるが、区で把握はしていない。
- ・ポイ捨て防止キャンペーンや駅前清掃など、区が主導して町会の皆さんにお声掛けをして参加をいただいている活動はある。昨年から始めたものもあるので参加者はまだ多い状況ではないが、区としてもいろいろと試行的に実施している。

○委員

- ・環境学習の推進と担い手ということでかなり努力されていて、環境リーダーだけではなく、ジュニアの育成に努めているというところは評価されると思うが、育成したジュニア、中学生がどのような活動をしているのかが書かれていない。具体的な活動の場はどのようなところなのか。また、十条富士見中学校と記載されているが、この学校だけで全 6 回あって中学生がそこに集結して 82 名なのか、あるいは授業中にやっているということなのか。

○事務局

- ・ジュニア環境リーダーの養成講座に関しては、全6回の講座となっており、3回が座学で残りの3回が実習になっている。実際に中学生がどこで活動するのかということに関しては、実際には特に無いというのが正直なところである。ただ大人の環境リーダー養成講座を含めて、このような環境学習講座の参加者数は結構見込まれており、若いお子さん世代も親子で参加していただいている方が結構いる。若い世代と大人から高齢者の世代は層が厚いが、その中間層である中高生、大学生あたりが少ない現状があるので、その層向けの講座という形で続けている。
- ・年に1度中学校で実施している内容については、会場校である中学校の理科系の部活動にお話をさせていただき、部活動の一環で行っているのが現状である。

○委員

- ・教育委員会と連携はしているのか。

○事務局

- ・理科部の活動の中で区の理科支援員さんにご協力いただいて講座を運営しているということはあるが、学校を選定する際は、環境課の担当が直接学校にお願いをしている。

○委員

- ・もっと積極的にやっていくと、ジュニアが増えてシニアのやりがいも増えるのではないかと。環境学習を推進するというのが重点政策ということを考えれば、もっと教育委員会や各中学校の協力を得てやっていくとよいのではないかと。

○事務局

- ・何年か前に校長会に参加をしてPRをしたが、なかなか手が挙がらない状況がある。

○委員

- ・かなり前だが、環境省が市民参加の生物調査を実施し、北区も環境省に準じた形で実施したと思う。調査場所を特定するために地図にメッシュを設定して実施したが、現在、東京都が株式会社バイオームという会社とGPSやAIを使って素人の方でも調査ができるような事業をやっている。北区のSNSでこのような事業を広報して多くの区民が参加すると、北区の財政負担は無く情報を得られるのではないかと。千代田区や足立区でも、この会社と連携して独自に事業をやっているのだから、北区でも5年ごとの調査の時などにそういったことを検討してもよいのではないかと。

○事務局

- ・検討させていただく。

○委員

- ・環境賞やその他にも様々な環境に関する企業向けの賞などがある。そういったものを、区、都、国が別々にやるのではなく一緒にやれば、費用はかからず効果も上がっていくのではないかと。

○事務局

- ・各地域、各区の特性があり、例えば北区には大きな樹林がなかったりする。そのような地理的状況が自治体ごとに異なるので難しい面があるが、どこかの機関が音頭を取って横断的な調査をするなど連携ができればいいとは考えている。

○会長

- ・緑被率が2018年から2024年は低下しており、公園の目標も2024年に増えてはいるが中間値の目標には達していない。緑地の確保の目標も思ったような数字にはなっていない状況を見ると、緑被率について2029年度の目標達成は難しいのではないかと。思うが、どのように考えているか。

○事務局

- ・緑被率に関して、この目標達成はかなり難しいと考えている。今後、もう少し実態に合った目標数値を

検討し、それに向けて様々な取り組みをやっていきたいと考えている。

○会長

- ・今回がちょうど中間の時期なので、この中間の結果を踏まえて後半をどう進めていけば良いかを検討した内容を出された方が良かったのではないかと。これから検討するとなると、すぐに目標の最終年次が来てしまうが、どのように考えているか。

○事務局

- ・緑被率の2024年度の実績が18.26%で、計画時の現況値が18.43%であった。最初の説明でもご説明したが、現在大規模な都営団地やURの団地の建て替えの最中であり、これらが竣工されると結構な量の緑が生まれるのではないかと考えている。

○会長

- ・わかりました。それらの数字が出た状況を踏まえて、今後については考えていくということですね。
- ・資料3(1)の保護樹木について、直近の1年で7本減の説明があったが、そこよりも2020年の441本から2021年に426本に減ったところの方が大きいような気がするが、この減はどういう理由で減ったのか。

○事務局

- ・保護樹木については剪定費用などに充てていただくための助成金の制度がある。ちょうどその頃に樹木の倒木事故があったため、その助成制度を使っていない所有者の方に調査をした。その結果、すでに樹木が無いということが判明して指定解除となる数が増えてしまった。

○会長

- ・(2)水辺環境の保全の雨水浸透施設の設置の推進のところ、進捗状況を見ると数字がどんどん少なくなっていて、数が減っているのではないかと印象を与える結果になっているが、これは設置されたものが累積して効果を発揮していくわけなので、設置数が減っていても累積数が増えれば、一定の効果が上がってきているのではないかと思います。いかがか。

○事務局

- ・この数値は当該年度に設置の完了した件数を記載しているので、設置した数は累積して増えている。

○会長

- ・累積効果がある程度働くのであれば、累積数が増えているということを実績としてきちんと示した方がよいのではないかと。
- ・資料5の実態調査報告書の概要版のところで、壁面緑化が4,909㎡から4,547㎡に減ったという記載や、屋上緑化のところ、9.42ヘクタールから9.51ヘクタールに大きく増えたという記載があるが、この2つの数字に関しては、当初の計画の目標値とは、直接的な関係が見えるような構造の数字でないような気がする。実態調査の報告書をまとめるにしても、目標として設定したものの変化がどうなっているかということを示した方がよいのではないかと。この数字を見ると、屋上緑化がすごく広がっているようにも見えるが、全体としてはどういう結果になっているのかが分かりづらい。

○事務局

- ・それぞれの内訳を、詳しく示すような形で記載していく。

○委員

- ・(1)豊かな緑の保全のところの崖地樹林面積について、面積というのは通常は上から見た面積で計算していると思うが、崖の場合は横から見た面積が結構広くなる。この面積はどちらで捉えているのか。

○事務局

- ・上から見た面積である。

○委員

- ・崖地の場合は、実際はそれよりも面積として広いのではないかと。北区は崖地の樹林が多いと思うので、そういった計算をした方が実質的な樹林面積が増えるのではないかと思います。

○委員

- ・北区西ヶ原の外語大の跡地に「みんなの公園」というものがある。その中に自然観察園というものがあるが、ほとんど閉まっている。日曜日の数時間だけオープンしていると思うが、開園時間を増やして、その自然観察公園をもっと生かしていただきたい。また、隣にある西ヶ原小学校は現在改修中で、校庭の半分が使えない状況である。そういった状況があるので、隣にあるこの公園で有意義な環境活動ができるような形にしていきたい。

○事務局

- ・自然観察園の開園時間については所管に伝える。

○事務局

- ・1点修正をさせていただく。先ほどの環境リーダーの修了生の活動について、講座の実施機関である清水坂とエコベルデで行っている修了生活動は委託の一環で行っております。

(3) その他

○事務局

- ・今年度は本日だけの開催予定。東京都環境影響評価条例に基づく環境影響評価の対象となった場合には開催する。